



昭和34年4月18日制定

あさひ

120th Anniversary 9月号

令和3年9月1日
横浜市立旭小学校



<公式WEBページ> <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/asahi/> 随時更新しています

この困難をチャンスに、世界を変えていけるように

校長 益子 照正

夏季休業明けが3日遅れ、久々の学校生活も分散登校での幕開けという、異例の再開となりました。感染爆発が収まらない状況の中で、旭小学校としましても、児童の安全を最優先に可能な限り「学びを止めない」を合言葉に教育活動を進めていきます。

さて、私にとって夏は「スポーツの夏」です。自分が運動することはもちろん、多くの競技会場に足を運んで熱いプレーを自分の目に焼き付け、元気をもらうのが毎年のルーティンなのです。しかしこの夏は、「おうち時間」が長かったこともあり、テレビ観戦でたくさんの感動をもらうことができました。

特に多くの感動を得られたのは、夏の高校野球からです。ごくわずかの関係者だけしか球場に入れない異例の光景の中、智辯和歌山高校が兄弟校対決を制して頂点に立ちました。その優勝シーンを含め、高校生が残してくれた事実からたくさんの感動と今後の自分への示唆を得ることができました。

みなさんはお気づきになったでしょうか。優勝を決めた直後、智辯和歌山の選手は、マウンドに集まって喜びを表現することなく、静かに整列に加わったのです。大会前「相手への敬意を表するために、自分たちは集まることをやめよう」「勝負が完全に終わってから喜び表現しよう」と意思確認したという記事を読んで知っていたことではあったのですが、それを自然に実行する行動に感動を覚えました。このチームは昨冬、アメリカでも活躍した元野球選手イチロー氏の指導を受けたとのことで、その考え方を大切にしていたようです。イチロー氏が日本のプロ球団に入団した30年ほど前のバッティング理論は、当時、神様といわれていた川上哲治氏の「体重移動が少ない」フォーム一辺倒でした。しかし、入団当初の若きイチロー選手は、周囲から「成功しない」と否定されていた「振り子打法」と呼ばれる体重を移動しながら打つフォームを確立し、誰もが成し得ない実績を残しました。固定観念にとらわれず新たな発想で自分の道を開拓し続けた偉大な実践者の言葉を信じ、全員で同じ目標に向かった結果がこの優勝につながったのでしょう。優勝したことで、このエピソードがさらにクローズアップされることになりました。

また、今年の大会は無観客だったからこそ、試合中の球児の声がマイクに拾われていました。試合後のあいさつあと「ありがとう」と相手に声をかける姿が何度も映し出されました。勝敗を度外視して相手を敬う姿勢は、まさに人間として最も重要なことの一つなのではないでしょうか。数年前の行動が報道されて以来、けがをした相手選手にすばやく冷却材を差し出したり、足がけいれんしている相手選手にスポーツドリンクを手渡したりする姿は、いまや当たり前になりました。

小学校でも学校教育に活かせそうなものがたくさんありました。コロナ禍をひっくり返すことは、私たち個人には簡単ではありません。しかし、ちょっとした行動や考え方が誰かに受け入れられ、誰かの手を通して広がっていくことで、世界を変えていける、そんな気持ちにさせてくれるこの夏でした。

分散登校から始まる冬までの長いシーズン、目の前のこと一つ一つを大切に、旭小学校の新しい歴史のページを綴っていきたいと思います。ご理解とご協力、よろしくお願いいたします。

9月2日(木)以降の欠席連絡と健康観察の連絡方法が変わります

先日より、ロイロノート等を活用した健康観察の連絡にご協力をいただき、ありがとうございます。

これまでは、①ロイロノートでの連絡②学校メールへの連絡の2つの方法をとってまいりましたが、

9月2日(木)以降は、①ロイロノートでの連絡②Google フォームによる連絡の2つに変更します。

Google フォームによる連絡を使用される場合は、右下のQRコードを読み取り、

ご回答ください。今後、学校メールでの連絡はお控えください。よろしくお願いいたします。

なお、欠席連絡と健康観察のご連絡をしていただくのは、「登校日で欠席をする児童」

「家庭学習日の児童全員」となります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



欠席連絡と健康観察の連絡方法 変更前・変更後比較表

変更前 (9月1日まで)	変更後 (9月2日以降)
①ロイロノート ②学校メール	①ロイロノート ②Google フォーム(右 QR コード)

※①②での連絡が難しい場合は、9月2日(木)以降も学校への電話連絡も従来通り行うことができます。